

◀ 第2回 子ども読書ボランティア研修会 ▶

【趣旨】

県内各地で読書ボランティア活動に携わる方々が、子どもの読書・青少年の読書活動をより豊かなものにするために必要な知識や技術等について学び、個々の資質を高める機会にする。また、参加者相互の実践交流より、新たな気づきや学びを深め、学びの成果を社会に生かす取組が市町等と連携して展開されることを目指す。

【日時】 令和4年10月28日（金）13:30～16:00

【会場】 野洲図書館 ホール

【参加者】 51名（内訳：小・中・高校生向け読書ボランティア、学校図書館司書、県内公共図書館・市町行政関係者等）

- 【内容】
1. 講演
 - ・演題 「ひろがる つながる 地域に根差した読書ボランティア活動」
 - ・講師 藤田 直子 さん（和歌山県社会教育委員会 議長、和歌山大学教育学部教職大学院 非常勤講師）
 2. 実践交流・情報交換
 - ・コロナ禍での実践事例の紹介
 - ・朗読前の準備体操
 - ・仕様グループに分かれて、本の読み聞かせまたは朗読の実践交流
 3. 講師からの助言

● 講演

藤田さんからは、読み聞かせや朗読の基本を確認することの大切さや、地域の人々のつながりが子どもの言葉の力を育てることを、豊富な御経験と実践を通じて丁寧にわかりやすくお話いただきました。

子どもたちは、大人とのかかわりの中で、絵本のお話や声を聞くことを楽しみ、自分で本に手を伸ばして、読みたい本を見つけ、読むことを楽しむという姿から、読書ボランティアが、読み手として大切にしたいことを話されました。また、子どもたちには、「豊かな言葉の使い手」に育てて欲しいという願いもって実践されているこれまでの実践についても紹介いただきました。

● 実践交流

読み聞かせまたは朗読をするための基本事項として、①そもそも絵本とは、②読み聞かせ（朗読）の意義、③集団に向けて読む本の選び方、④本の扱い方&読み方、の4項目について和歌山県での事例を交えて解説いただきました。

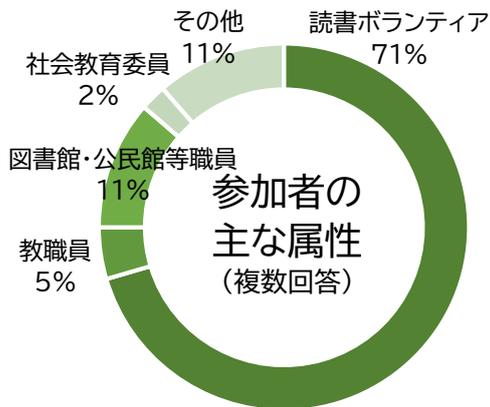
また、参加者の皆さんとともに、朗読前の準備体操をした後、小グループに分かれて、各自が持参した本や絵本の読み聞かせを聴き合い、情報交換を行いました。

● 参加者の感想

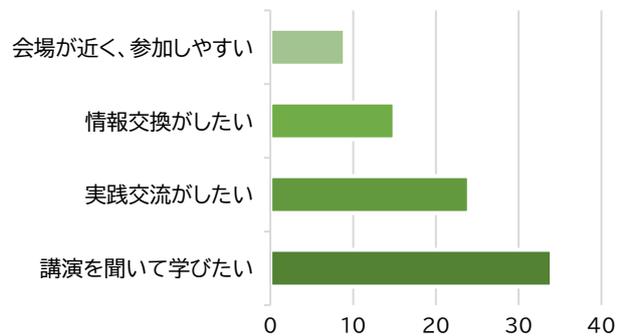
「子どもたちと地域の交流の大切さが確認でき、自信が持てました」、「読み聞かせボランティアが、地域のつながりづくりや地域の活性化につながる活動であるということが新しい発見でした」、「読み手が楽しむことが何より大切という言葉に力をもらいました」、「分かりやすい講義で、より理解が深まりました」等、先生の御講演に共感し、楽しんで学ぶことができたという声が多数寄せられました。

● 参加者アンケートの集計結果

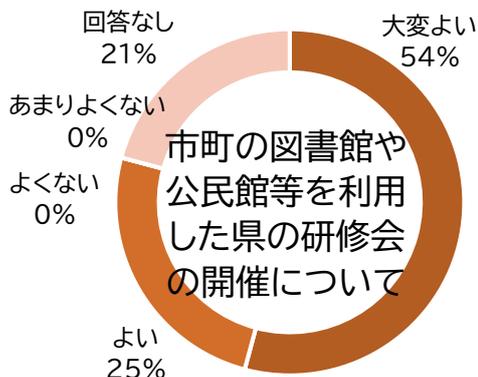
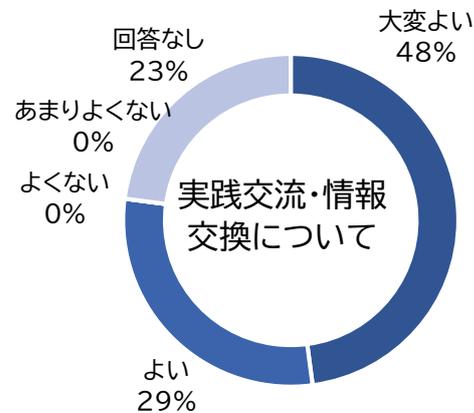
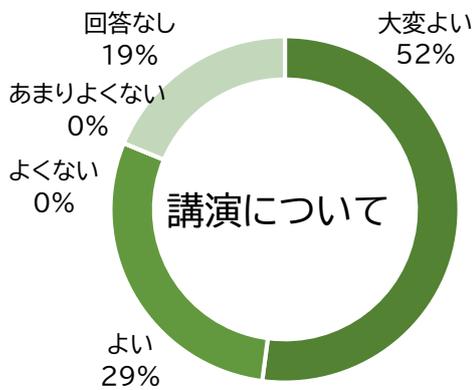
アンケート回答者 40 名、アンケート未提出者数は「回答なし」として集計しています。



研修会に参加した理由 (複数回答)



満足度評価



参加者の主な活動場所 (複数回答)

